

←350

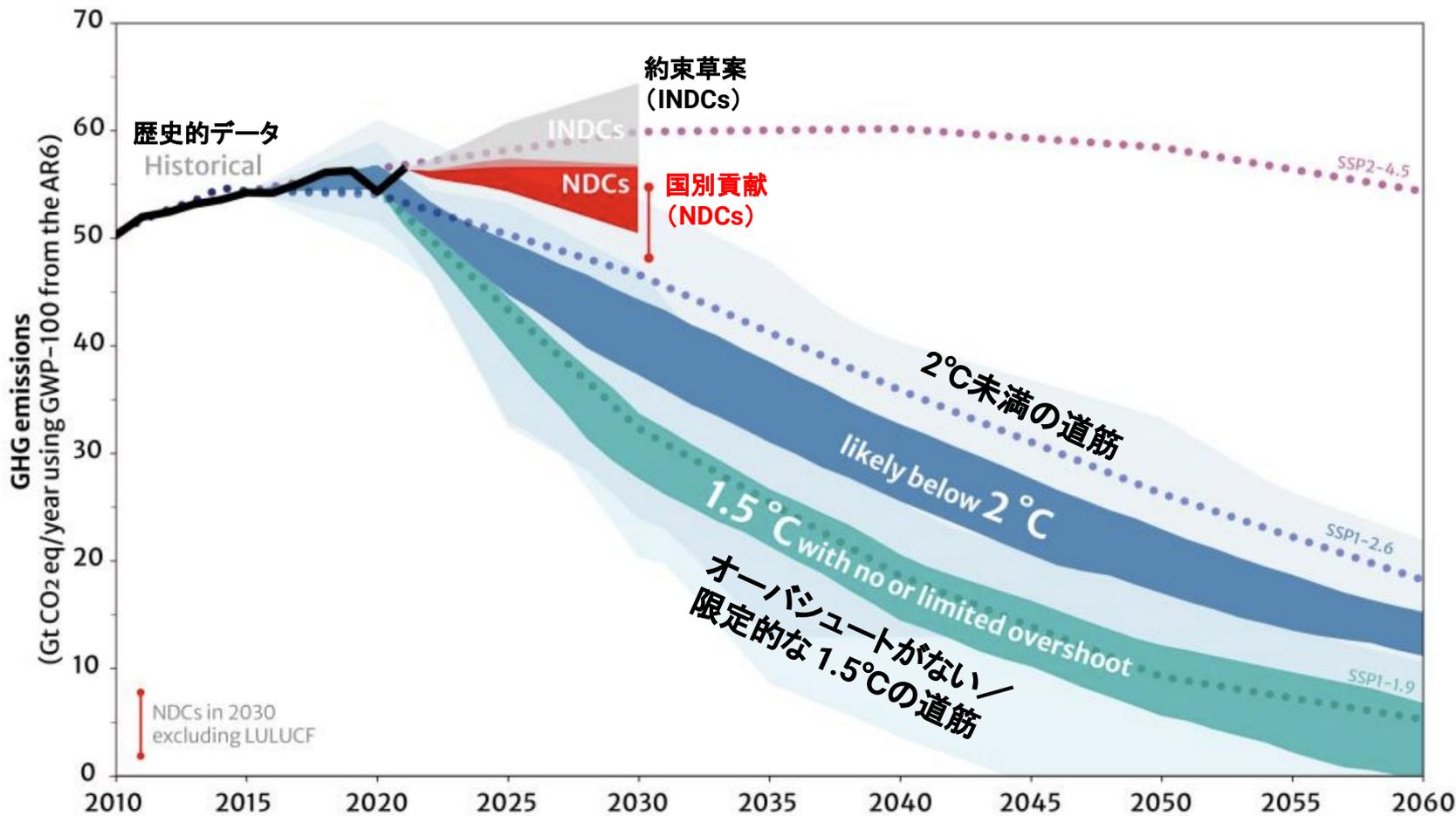
COP29における緩和： 温室効果ガス排出削減は進むのか

伊与田昌慶(国際環境NGO 350.orgジャパン・キャンペーナー)
2024年12月9日(月)COP29報告会

各国政府の目標をすべて達成しても、1.5°Cはおろか2°C未満にも届かない

Source: UNFCCC "Nationally determined contributions under the Paris Agreement: Synthesis report by the secretariat"

温室効果ガス排出量 (Gt CO₂換算/年)



代表的な気候変動対策の種類

緩和 mitigation	適応 adaptation	損失と被害 loss and damage	実施手段 means of implementation
大気中の温室効果ガス濃度の上昇を食い止め、気候変動を緩和する	気候変動が進行しても実害がでないよう社会経済を新たな気候に 適応 させる	適応策をとったとしても生じる気候変動による 損失と被害	緩和や適応などの気候変動対策を 実施するために必要な手段
例: 脱化石燃料、省エネ・再エネ拡大、森林吸収源	例: 農作物の転換(りんごからみかん)	例: 気候災害被害や海面上昇による悪影響への対応	例: 資金、技術、能力構築等の途上国支援

COP29における緩和交渉：進展みられず

1. 緩和作業計画（MWP）

- a. MWPのもとグローバル・ストックテイクの成果を取り扱うことに反対するサウジアラビアなどの国あり。排出削減への強いメッセージを出せず

2. グローバル・ストックテイクの成果の実施に関する UAE対話

- a. COP28における「化石燃料からの脱却」などの成果に言及し、野心的な国別貢献（NDC）を見据えて、排出削減強化の強いメッセージを出すことが求められていた
- b. 多くの国がグローバル・ストックテイクのフォローアップを有意義なものとするよう求めていたが、議長国の意思、気候資金（NCQG）の難しさ、UAE対話は資金のみに集中すべきとのサウジアラビア等の意見などから、議論は進展せず。合意文書なしという結果に

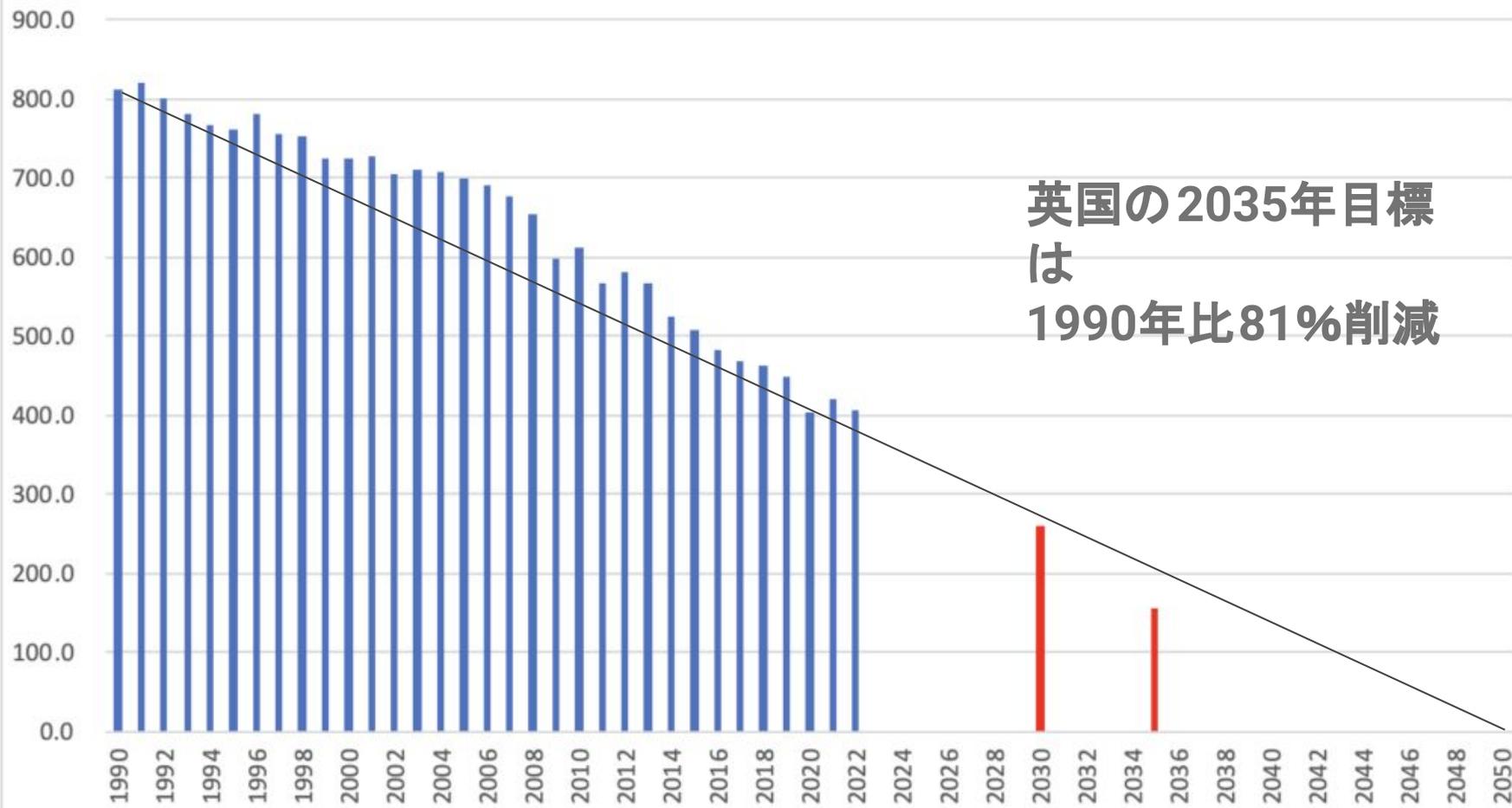
3. 「カバー決定（cover decision）」

- a. COP29議長国がカバー決定をつくることに消極的で、結局つくられなかった

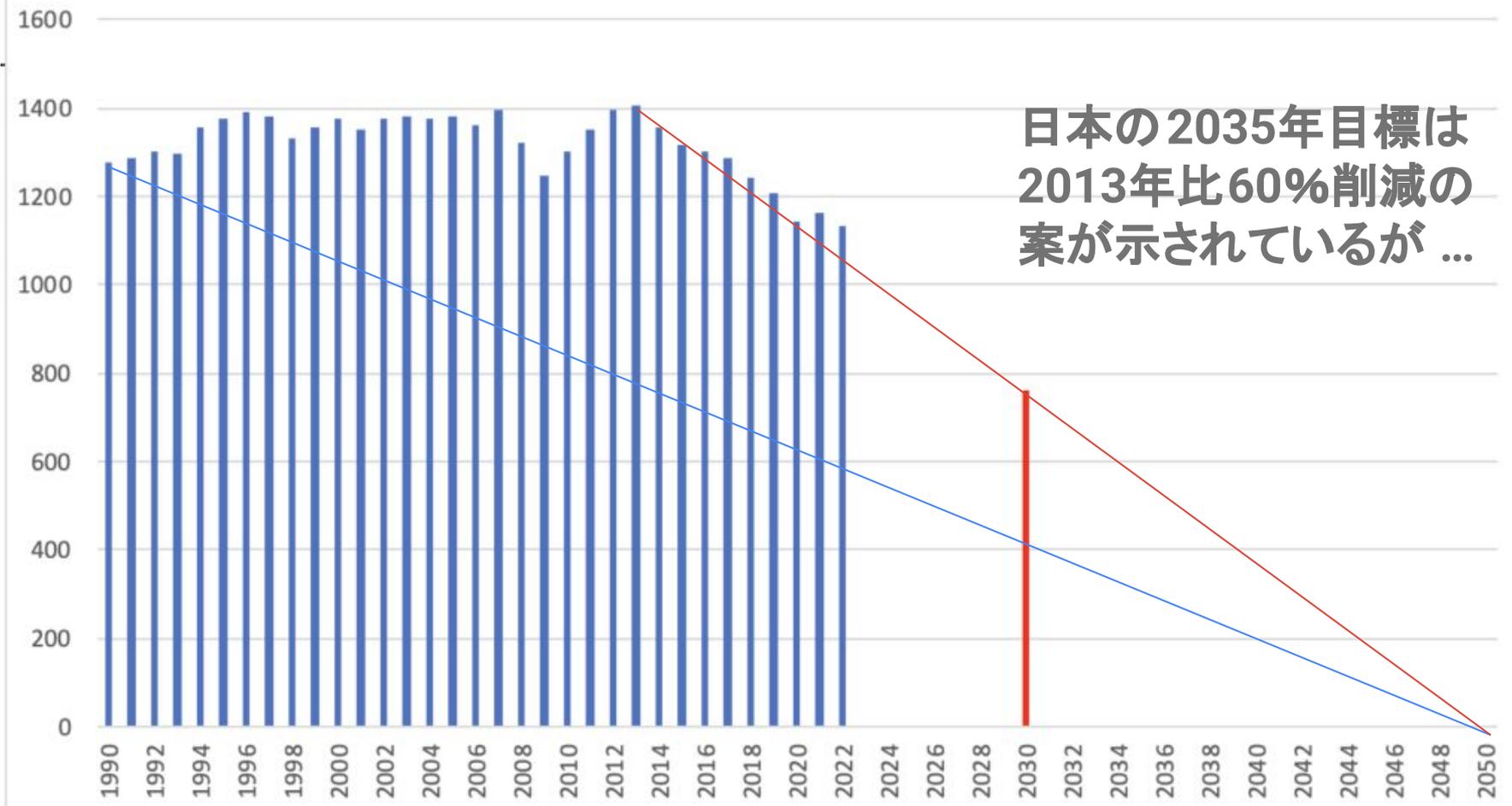
COP29における緩和の話題

- 英国政府やブラジル等がCOP29において2035年に向けた新たな温室効果ガス排出削減目標を発表
 - 英国の「1990年比で2035年までに81%削減」という目標水準は、同国の独立の「気候変動委員会」の勧告に基づくもの
- COP29における化石燃料ロビイスト(Kick Big Polluters Out)
- 「化石燃料不拡散条約」イニシアティブ
- 米国の脱化石の未来への懸念と抵抗

英国の温室効果ガス排出量の推移と目標



日本の温室効果ガス排出量の推移と目標



日本の2035年目標は
2013年比60%削減の
案が示されているが ...

COP29からCOP30に向けて

- 世界全体の緩和強化のためには「実施手段(MoI)」、とりわけ気候資金の適切な強化も不可欠である
- 国際政治状況は不安定に見えるが、長期的に脱化石・脱炭素をめざす流れは揺らいでいない
- 2025年2月の締め切りに向けて、日本を含む各国が野心的な国別貢献(NDC)を提出することが肝要。そのNDCはCOP28のグローバル・ストックテイクの成果である「化石燃料からの脱却」、「省エネ改善率2倍」、「再エネ設備容量3倍」との世界目標に貢献するものであることが求められる
- 日本はまもなくNDCの案のとりまとめと報じられるが、拙速に不十分な「2035年までに60%削減」では話にならない。「81%削減」をめざすべき



井気候危機は
井気候危機は
いのちの
問題

change.org

緊急署名



浅尾環境大臣へ
再エネを増やして下さい
2035年削減目標を15%削減
に整合するようにして下さい

結論ありきではなく、科学や若者の声を聞いて！ ～政府案「2035年までに温室効果ガス60%削減」は不十分～



温室効果ガス
削減目標引き上げて

The People United
will never be
Defeated!

Save the Earth
For
Our Children

NDC